

キャラクター名
ジュリ・モントローズ

— プレイヤー名 —————

種族	エルフ	種族特徴 暗視、剣の加護/優しき水		
生まれ	練体師	性別	男性	年齢 27
冒險者LV	7	経歴	大きな挫折をしたことがある 大切な約束をしたことがある	
経験点	-16000		かつては貴族だった	

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	11	器用度	6	2		19	3
		敏捷度	3	4		18 + 2	3
体	5	筋力	3	14		22 + 2	4
		生命力	4	12		21 + 4	4
心	10	知力	6	2		18 + 2	3
		精神力	4	5		19	3

技能	Lv.	技能	Lv.
ファイター	7		
レンジャー	4		
エンハンサー	3		

技能	技能	基本	基本	基本追加
	レベル	命中力	回避力	ダメージ
ファイター	7	10	10	11
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾	装備	必要			
		ランク	筋力	回避力	防護点
鎧	プレートアーマー	21	-2	7	
盾	タワーシールド	17			2
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能	ファイター		合計値	8	10

一般装備品	(消耗チェック)
アウェイクンポーションx2	○□□○□□
救命草x3	○□□○□□
魔香草x3	○□□○□□
カイトシールド	○□□○□□
接合潤滑剤x2	○□□○□□
ハードレザー	○□□○□□

		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 m	20 m	60 m	2d+ 8	10	91
魔物知識/弱点	先制力		生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 0 / ×	2d+	0	2d+ 11	2d+ 10	19

装備品	説明
頭 スマルティエ・ハット	
耳 スマルティエ・イヤリング	
顔 スマルティエ・ヘアバンド	
首 スマルティエ・チョーカー	
背中 ウエポンホルダー	カイトシールド
右手 スマルティエの筋力の腕輪	
腰 ブラックベルト	
足 立ち寝のレギンス	気絶・睡眠しても転倒しない
その他スマルティエの敏捷の腕輪	

装備品	説明
左手 スマルティイの知力の腕輪	
スマルティイ・シリーズ	

—その他メモ—

ジュリアン・モントローズ。

幼年期の彼の愛読書は「放浪騎士レオ」の物語である。

名家の出でありながら、それを捨て弱き者を守るためにその力を振るうその姿は、彼にとって憧れで

彼もまた名家の出身であるから放浪騎士レオとは重なるところも

まあ、この時代に生まれた少年にとってはよくある話である。

だから、当然のように彼は家を飛び出し、冒険者になった。弱きものを守るために。

ただ、彼は現実に打ちのめされることとなる。放浪騎士が当然のように着けていた鎧は貴族のお坊ちゃんにはあまりに重く、付けてマトモに

動くことはできなかった。

盾も鎧も剣も全てが不相応。初めてのクエストで彼が成功できたのは奇跡に近いだろう。

誰かを守るために冒険者になったというのに、守るどころか守られる存在となった彼は、失意に沈んでその夜を過ごした。

貯金を日々切り崩し、無意な日々を積み重ねていく彼は、家に戻りって思春期によくある若気の至りとして、この冒険を片付けようとした。

□□□□□